

会 議 録

会議の名称	平成 24 年度 第 3 回富士見市図書館協議会
開催日時	平成 24 年 9 月 15 日 (土) 午前 10 時 00 分 ~ 12 時 00 分
開催場所	中央図書館 レセプション室
出席者	高橋 さかえ委員 岩本 喜直委員 上松 恵美子委員 内田 弘委員 大澤 茂和委員 高居 正博委員 中澤 佳珠代委員 矢沢 靖子委員 教育委員会生涯学習課 金田課長 林図書館担当 古川図書館担当 事務局 根来中央図書館長 一戸中央図書館副館長 赤本鶴瀬西分館長 岩崎ふじみ野分館長 宮地中央図書館業務責任者
欠席者	小林 恵子委員 野村 富雄委員
公開・非公開	公開 (傍聴人 0 人)
会議次第	委員長あいさつ 新委員任命書交付 (内田委員、矢沢委員) 報告連絡事項等 1 図書館主催事業について 2 市議会報告について 協議事項 1 市提案事項について
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・富士見市図書館協議会委員名簿 ・富士見市立図書館各館の開催事業報告 (6 月中旬 ~ 9 月中旬) ・利用者数推移表 ・「第 2 次富士見市子ども読書活動推進計画」について ・平成 24 年度 富士見市立図書館利用者懇談会の開催について ・各館の広報紙 <ul style="list-style-type: none"> さざなみだより 7 月号 8 月号 9 月号 とびらしんぶん 9 月号 BOOK ADVENTURES 167 号 にこにこひろば 7 月号 8 月号 9 月号 つるせにししんぶん 40 号 41 号 42 号
会議録確認	高橋 さかえ委員

議 事 内 容

【報告連絡事項】

1. 図書館主催事業について

各館で実施した6月中旬から9月中旬までの開催行事について報告を行った。

2. 市議会報告について

8月28日から9月14日まで開催された9月定例会の報告。図書館については議員2名から質問あり。

篠田剛議員

出前講座などで活用したDVD資料を図書館などで一般市民に貸すことはできないか。

図書館のように広く多数の方に公開する場合は、著作権者などの許諾が必要だが、許諾関係が明らかでなく難しいケースが多い。今後も許諾が確認できるものについては貸出できるよう資料収集に努める。

川畑勝弘議員

図書館の運営を自治体直営に戻すべきではないか。予約資料の取扱いや学校等との連携などの点で課題がある。また、図書館協議会としては指定管理者制度をどのように考えているのか。

図書館としては児童サービス担当の増員や学校との連携強化を図るなどの方策をとっている。サービス向上もある程度できていると認識。

指定管理者制度に移行して2年半という中間点を迎えて、市議会でも注目されていることの現われと捉える。

(質問)

委員：DVDの著作権についてもう少し詳しく説明がほしい。

市：図書館の場合は不特定多数が見ることを前提としているが、製作者によっては全てに公開することを前提としていない場合がある。そのあたりを精査する必要がある。問題ないものは図書館で広く利用していただきたい。

委員：出前講座で使っているDVDには著作権をクリアしていないものもあるということか。

市：出前講座の場合はDVDの制作意図に沿った業務利用として町会など限定した範囲で行われている。これを不特定多数の利用に供する場合は、著作権処理が必要になる。

委員：指定管理者が学校との連携が取れていないという指摘だが、その根拠は何か。

市：そういう声が議員に届いたとのこと。自治体直営から指定管理者に移行した2年間に、職員の不慣れな点や学校との信頼関係が充分でなかった時期もあった。ただ、現在は改善されつつあると認識しているので、そのようにお答えした。

【協議事項】

1. 市提案事項について

「第2次子ども読書活動推進計画」を策定するにあたり、計画作成の目的、富士見市における子どもの読書に関する現状、図書館での児童奉仕の目的、第2次計画のポイントについて説明。関係各機関・施設・団体等の「つながり」の重要性をテーマに、委員からの意見を求めた。

委員：学校と学校以外の読書スペース(図書館を除く)の蔵書状況が示されたが、団体の把握はどこまでできているか。

市：現時点で把握できているのは表に挙げたもののみで、サークル活動などまでは把握できていない。地域文庫や人形劇サークルなども含めれば、かなりの数にはなるだろう。

委員：計画策定に関して庁内組織はできているのか。

市：策定委員会を設置している。6月には第1回会議が行われた。

委員：保護者への理解を深めるため、子育てサークルなどへのPRも必要ではないか。

委員：各スペースで蔵書状況にバラつきがあるが蔵書基準はあるのか。また、5年以内に入手した本の割合についてはどうか。

市：新しい施設の蔵書は少ないが5年以内に入手した新しい本が多く、古くからある施設の蔵書は多いが新しい本は少ないという状況。学校の蔵書数は、児童数に対する標準冊数に照らせば基準は満たしている。

委員：関係団体の「つながり」とは具体的にどのようなことを想定しているのか。

市：1つは、多様な部署をつなぐ連絡会のような庁内組織がないので作るべきかと思う。次に、子どもたちが最も本に触れる学校図書館との連携を考える。図書整理員と市立図書館との会合は年1回あるが、図書主任などの教諭との接点がないので、機会を設けたい。

委員：なぜ、今までできていなかったのか。

市：課題意識が希薄だったと考えている。第2次計画ではその点を強化したい。

委員：第1次計画の目的を達成できたか否かの検証も必要。

委員：騒ぐ子どもへの対処方法などを見ていると、子どもを公共図書館の利用対象に含めていないのではないかと感じる。将来の利用者として育てることを考えてほしい。

図書館：騒ぐ子どもを単に注意するのではなく、公共施設でのルールを教えるようにしたい。図書館を嫌いにさせないようにするために、周囲の大人への理解も深めたい。

委員：広報やポスターで、子どもたちの図書館利用に対して理解を求める工夫が

必要ではないか。

委員：大前提として、子どもに本を好きになってもらうことが大切。そのための環境作りとして、各団体が具体的にどのようなつながればよいかを考えるべき。

委員：統計によれば、移動図書館車の終了とともに子どもの利用が減っている。図書館は遠いから行かないということではないか。公共施設受取が伸びていることからそれはわかる。近場の公共施設を充実させる必要があるのではないか。図書館の蔵書を流通させてはどうか。

委員：情報の周知も大切な問題である。例えば駅構内に「自治体からのお知らせコーナー」を設置できないか。

委員：学校図書館で除籍作業が進まないのはなぜか。方法の指導などはしているのか。

市：実態は把握できていないが、市立図書館に相談しても良い。これも「つながり」の1つと考えている。

委員：図書主任の教諭も図書整理員も忙しくて時間的にできていないケースもあるのではないか。

委員：そう思う。私も読み聞かせで学校に行った時に、先生が忙しいという話を聞き、読み聞かせに来ている母親たちに協力を求めて本の除籍を手伝った経験がある。そういう方の連携ができるのではないかと思う。

委員：庁内組織が機能していれば、こうした問題も共有できる。計画だけで終わらないよう実現していく必要がある。また、除籍だけでなく本の購入についても実態を知ることが必要である。

利用者懇談会について

11月に市内5か所で開催（中央図書館・鶴瀬西分館・ふじみ野分館・水谷東公民館・針ヶ谷コミュニティセンター）。委員にはお住まいの地域での参加促進や開催に向けての雰囲気作りなどご協力をいただきたい。

次回開催日程

平成24年11月17日（土）午前10時から開催する。